

配信先: 総務省記者クラブ、テレコム記者会、
文部科学記者会、科学記者会、
大阪科学・大学記者クラブ、
学研都市記者クラブ

プレスリリース

2025 年 9 月 18 日

株式会社 Preferred Networks
さくらインターネット株式会社
国立研究開発法人情報通信研究機構

Preferred Networks、さくらインターネット、情報通信研究機構、 安心安全で日本社会と調和する国産生成 AI のエコシステム構築に向け、 基本合意を締結

株式会社 Preferred Networks (本社: 東京都千代田区、代表取締役最高経営責任者: 西川 徹、以下: PFN)、さくらインターネット株式会社 (本社: 大阪府大阪市、代表取締役社長: 田中 邦裕、以下: さくらインターネット) 及び国立研究開発法人情報通信研究機構 (本部: 東京都小金井市、理事長: 徳田 英幸、以下: エヌアイシーティー NICT) は、安心安全で日本社会と調和する国産生成 AI^{*1} のエコシステム構築を目指すことで基本合意を締結しました。

生成 AI は様々な分野で活用が進み、将来的な国家や社会の競争力の源泉とみなされつつあります。一方で、悪意を持った利用や、悪意がなくとも意図せずにヘイトスピーチ等の不適切な出力がなされる可能性、さらには、AI エージェント^{*2} 等の制御不能な暴走等の懸念やリスクが顕在化しつつあります。また、こうした課題への対応と併せて、日本の文化や制度が十分に考慮されている生成 AI への期待も高まっています。

今回の三者の取組では、こうした懸念点に対して、日本の文化や社会等に留意した高品質かつ大量の学習データを用いた安全で高性能な国産 LLM^{*3} の開発とそのサービス化を実施します。さらにそれらを通じて、日本社会と調和しつつ、日本全体の生産性を向上させることのできる国産生成 AI に関する学習データの収集、クリーニング、構築から生成 AI の学習、チューニング、サービス提供・実活用まで含めたエコシステムを構築することを目指します。

より具体的な活動は以下の通りです。

● PFN は、2026 年春に向け、PFN がフルスクラッチ開発した国産 LLM の PLaMo™ 2.0 の後継となる LLM 群を NICT と共同開発します。PFN が独自に構築した日本語データを多く含む大量の合成学習データや Web データに加え、NICT が独自に収集・構築した Web ページやインストラクションデータ等を学習に用いることで、日本語性能に優れ、日本の文化、習慣、法制度等への理解を高めた生成 AI の開発を進めます。

● さくらインターネットは、フルマネージドの生成 AI 向け実行基盤「さくらの生成 AI プラットフォーム」において、選択可能な基盤モデルとして NICT と PFN が共同開発する LLM を提供します。これにより利用者は、クラウド基盤からアプリケーションまで「完全に国内で完結した」生成 AI の活用が可能になります。日本発の技術を活用し、安全かつ信頼できる AI 基盤の利用を実現します。

さらに本取組では、上述の LLM を「さくらの生成 AI プラットフォーム」上でサービス化し、NICT の AI 評価基盤の商用化に向けた検討・実証を進めるとともに、パートナーとの協業を通じて多様な人材が活躍できる新たな機会を生み出し、地域の活性化にもつなげます。これらの活動を通じて、データのインプットからアウトプットまでを一貫して整備し、日本企業や官公庁が安心して利用できる「信頼できる AI プラットフォーム」の提供を目指します。さらに、日本語特有の表現や背景事情を反映したデータ作成・活用をさせることで、日本に根差した信頼性の高い生成 AI の実現化を推進します。

● NICT は、2008 年から独自に収集している 700 億ページを超える日本語 Web ページを活用するとともに、PFN と共同開発する LLM や NICT が独自に開発した LLM、さらにはこれまでに開発した動作原理の異なる AI 等を組み合わせ、信頼性・創造性・多様性に富んだ AI 複合体を開発します。加えて、その AI 複合体を用いて、どの程度日

本文化に沿った回答がなされるか、ハルシネーションが発生するか等を動的に評価し、弱点を改善するための学習データを自動生成できる能動的評価基盤を開発していきます。これらは問題のある生成 AI の特定、改善に役立つほか、国産生成 AI の能力向上に貢献します。NICT はこれらの技術の研究開発を通して、日本におけるより安心安全で日本社会と調和した生成 AI の開発、普及、さらには日本全体の生産性向上に向けた活動を推進していきます。

<各者からのコメント>

■株式会社 Preferred Networks 代表取締役 最高技術責任者 岡野原 大輔

このたびの三者基本合意を受け、PFN は国産生成 AI の可能性を広げるため、持続可能なエコシステムの構築に向けて全力で取り組んでまいります。PFN のフルスクラッチ開発の強み、さくらインターネットのインフラ、NICT の研究開発力を融合させることで、日本の社会や産業に真に役立つ国産生成 AI の実現を目指します。PFN は、PLaMo の進化を通じて、信頼性の高い AI 技術を提供し、企業や公共分野での活用を促進しながら、日本全体のイノベーション創出に貢献したいと考えています。

■さくらインターネット株式会社 執行役員 霜田 純

AI 技術は医療、製造、クリエイティブなど多様な分野で急速に活用が進み、社会に大きな変革をもたらしつつあります。一方で、安心安全に AI を活用するためには、機密情報の取り扱い、AI の信頼性確保、そして高騰する半導体コストといった課題への対応が欠かせません。さくらインターネットもこのような課題に向き合い、フルマネージドの生成 AI 向け実行基盤「さくらの生成 AI プラットフォーム」の提供を通じて、持続可能な AI の社会実装を目指して取り組んでまいります。

■国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 阿久津 明人

生成 AI は、社会で広く使われるようになったのはわずか 3 年前のことで、非常に新しい技術ですが、かつてない速度で世界を変えつつあり、また、その普及、活用や関連する技術開発力が国、社会の今後を大きく左右する前例のない技術と言えます。一方で、様々なリスクが指摘され、最近では一般の方々による生成 AI への過度な依存も懸念されるようになっており、今後も全く未知のリスクが出現する可能性が高いと考えております。このような状況で、NICT は国立研究開発法人として日本の社会と調和する強力な国産生成 AI の開発とそのリスクへの対応に関して、全力で取り組んでまいります。

<各者概要>

株式会社 Preferred Networks について <https://www.preferred.jp/ja/>

Preferred Networks(PFN)は、現実世界を計算可能にするというミッションを掲げています。PFN は、生成 AI 基盤モデルからスーパーコンピュータ、チップ(半導体)まで、AI 技術のバリューチェーンを垂直統合することで、ソフトウェアとハードウェアを高度に融合したソリューション・製品を開発し、様々な産業領域で事業化しています。現在、電力効率の高い AI プロセッサ MN-Core™ シリーズ、AI 向けクラウドサービス PFCP™、国産大規模言語モデル PLaMo™などを開発・提供しています。2014 年創業。

さくらインターネット株式会社について <https://www.sakura.ad.jp/corporate/>

さくらインターネットは、1996 年創業のインターネット企業です。「さくらのクラウド」「さくらのレンタルサーバ」「さくらの VPS」などのクラウドコンピューティングサービスを、自社運営の国内のデータセンターから提供しています。「『やりたいこと』を『できる』に変える」の企業理念のもと、お客さまのご要望にお応えする多様なサービスを開発し、あらゆる分野に対応する DX ソリューションを提案します。

「さくらの生成 AI プラットフォーム」は、生成 AI アプリケーションと LLM をはじめとする基盤モデル、生成 AI 向けクラウドサービス「高火力」を繋ぐための API と RAG 向けのベクトルデータベースを提供するフルマネージドのサービスです。今後も様々な企業と連携し、本プラットフォームにおける基盤モデルやアプリケーションの選択肢を増やしてまいります。

国立研究開発法人情報通信研究機構について <https://www.nict.go.jp/>

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)は、情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関です。情報通信技術の研究開発を基礎から応用まで統合的な視点で推進し、同時に、大学、産業界、自治体、国内外の

研究機関などと連携して、研究開発成果を広く社会に還元し、イノベーションを創出することを目指しています。

特に AI 分野に関しては、けいはんな地区に所在するユニバーサルコミュニケーション研究所において長年にわたり取り組んできており、多言語音声翻訳システム VoiceTra、大規模 Web 情報分析システム WISDOM X、対災害 SNS 情報分析システム DISAANA、D-SUMM、防災チャットボット SOCD A、高齢者介護支援用マルチモーダル音声対話システム MICSUS 等を様々な企業、組織と協力しながら、開発、社会実装してまいりました。近年では、過去 20 年近くにわたって収集してきた大量の日本語 Web ページを用いて日本語特化型の独自 LLM をフルスクラッチで開発してきたほか、様々な AI システムを組み合わせ、現在の LLM の弱点である創造性、信頼性、多様性の欠如を解消する AI プラットフォーム WISDOM-LLM の開発を推進しております。

<用語解説>

※1 生成 AI (Generative AI)

新しいコンテンツを生成する AI 技術全般を指し、テキスト、画像、音声、動画、プログラムコードなど多様なコンテンツを生成できる。

※2 AI エージェント

一般的な LLM も含む生成 AI は、与えられたプロンプト、つまり、具体的な命令に対してもっともらしい応答やコンテンツを生成しようとするのに対し、AI エージェントは、具体的な指示ではなく、より漠然とした目標だけを与えられても、その達成のための手段(これには生成 AI やそれに対するプロンプト、さらに他種の AI やソフトウェアシステムも含む)を自律的に選択してタスクを処理する AI 技術である。人間の仕事では、往々にして漠然とした目標しか指定されないが、AI エージェントはそのような目標でも達成可能であり、人間の仕事をこなすことができると期待されている。一方で、AI 技術は万能ではなく、AI エージェントは多数の AI やソフトウェアを使うことから、単体の AI システムよりも予期しない出力や誤作動の可能性が増し、さらには問題が起きた際の責任の所在が不明確になるなどガバナンス上の課題も指摘されている。

※3 LLM (Large Language Model)

非常に大量のテキストデータを学習した巨大なニューラルネットワークによる言語モデル。LLM は生成 AI の一種であり、特にテキストデータの生成に特化している。

< 本件に関する問合せ先 >

株式会社 Preferred Networks
広報担当：坂口・秋山
E-mail: pfn-pr@preferred.jp

さくらインターネット株式会社
広報担当
問い合わせフォーム：
<https://sakura.f-form.com/sakurapr>

国立研究開発法人情報通信研究機構
広報部 報道室
E-mail: publicity@nict.go.jp